

# 評価報告概要表

## 第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成19年9月25日(火)

## 福祉サービス事業者情報

名 称	防府海北園	種 別	児童養護施設
代表者氏名	施設長 岩城 満	開設年月日	昭和28年10月1日
設 置 者	社会福祉法人 防府海北園	定員(利用人数)	72名(65名)
所 在 地	〒747-0064 防府市大字高井686番地		
電 話 番 号	0835-22-2044	FAX番号	0835-22-2271
ホームページアドレス	<a href="http://www3.ocn.ne.jp/~kaihoku/">http://www3.ocn.ne.jp/~kaihoku/</a>		

## 総 評

### 全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

#### 特に評価の高い点

施設機能の地域への開放や地域とのふれあいを大切にし、さまざまな行事に参加するなどして、子どもたちを人を思いやる心豊かな人間として、そして地域の一員として育てようという組織全体としての意欲が十分に感じられた。そのことは管理者の「施設の子とは言わせない」の言葉とともに組織全体に浸透している。子どもたちの進学や就職に際しても適切な支援がなされ、退所後の支援も確立されており、安心して巣立っていける体制が構築されている。運営管理や福祉サービスに関するマニュアルが整備されており、前回の受審以降、見直しや改善への努力がなされていることが認められた。

#### 改善を求められる点

中・長期計画の策定は組織全体の方向性を明らかにし、職員の職務遂行の意欲にもつながるなど重要と思われるので、策定へ向けて検討努力願いたい。また個々の職員に関する教育・研修計画を立てるなど、人材養成にも計画的な取り組みが望まれる。外部監査の実施や人事考課の実施は今後の課題である。なお、改善が求められるということではないが、日々の職員配置を考慮するなどして、子ども同士のいじめや暴力・差別などの問題が起こらないようにさらなる努力をお願いしたい。

## 第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

第三者評価を受審し、当園の福祉サービスを総合的に診断していただきました。  
第三者評価受審のために、日常業務を客観的に自己評価する過程を通して、職員一人ひとりの意識改革がはかられ、取り組む課題が共有化できることは大きなメリットです。今回の第三者評価の結果を受けて、福祉サービスの向上について、今後も努力すべきことと改めて感じました。

# 評価報告概要表

## 評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

福祉サービスの基本方針と組織	a	2	b	8	c	2	Na	0
<p>法人の理念や基本方針は明文化されており、管理者の「施設の子とは言わせない」の言葉からは人を育てることへの強い使命感と熱い思いが感じられた。また、管理者は自らの責任を明確にされ、リーダーシップを発揮されている。よって、そのことに対する評価、見直しを行うことにより、理念実現のための組織体制のより一層の充実に取り組んでいただきたい。国や県の現状において、中・長期計画の策定は難しさもあると想像されるが、計画を策定し文書化することは組織全体にとって重要と思われるので検討されたい。</p>								

組織の運営管理	a	10	b	8	c	4	Na	0
<p>経営状況の把握や分析、改善すべき課題への取り組みについては、管理者と職員による組織的な対応が望まれる。実習生やボランティアの受け入れには積極的であり、体制も整備されている。一方、人材養成の点から、職員の質の向上に関する教育・研修等の計画策定やそれらに具体的に取り組むための体制作りが不十分と思われるので、その整備をされたい。地域との交流や連携に積極的に取り組まれており、その姿勢、実績は大いに評価できる。特に日韓交流は特筆に価する。外部監査や人事考課の実施については今後の課題である。</p>								

適切な福祉サービスの実施	a	14	b	8	c	0	Na	0
<p>個々の取り組みにそれぞれマニュアルが整備され、職員間での共有化が図られており、よりよい福祉サービス提供に向けて積極的である。第三者評価の受審も今回が2回目であり、年々のサービスの質の向上がうかがえる。プライバシー保護については建物の構造面から十分とは言い難いが、これまでの居室に仕切り板を取り付けるなどしてプライバシーを守る工夫がされていた。冬季の全室床暖房、夏季の冷房と設備が整備され、子どもたちの快適な暮らしへの配慮がされている。</p>								

良質な個別サービスの実施	a	21	b	12	c	0	Na	0
<p>子どもが職員に対して個別にいろいろな話しや相談ができる体制がある。子どもたちの明るく笑顔の多い生き生きとした姿が食事時間やヒアリングの際に見られたことから、職員を信頼して生活している様子がうかがえた。子どもを尊重し、その権利を擁護する取り組みや自立支援等が、発達段階を考慮するなど適切に、かつ積極的に行われている。子どもの問題行動に対しては他人に対する配慮や人権に対する意識を持つよう、また職員の不適切な関わりや体罰などにはその防止や早期発見への取り組みを、今後も組織全体でさらに徹底されたい。性教育に関しては職員も懸命に取り組んでいることがうかがわれた。</p>								